

## 4. 医療機関に搬送するとき

### (1) 医療機関への情報提供

熱中症は急速に進行し重症化する病態です。熱中症の疑いのある人を医療機関に搬送する際には、医療機関到着時に熱中症を疑っての検査と治療が迅速に開始されるよう、その場に居あわせた最も状況のよくわかる人が医療機関まで付き添って発症時の状態などを伝えるようにしましょう。

特に「暑い環境」で「いままで元気だった人」が突然「倒れた」といったような熱中症を強く疑わせる情報は、医療機関が熱中症の処置を即座に開始する大事な情報ですので積極的に伝えましょう。

情報が十分伝わらない場合、例えば意識障害のある患者として診断に手間どり、結果として熱中症に対する処置を迅速に行えなくなる恐れもあります。次頁に「医療機関が知りたいこと」を示しています。このような内容をあらかじめ整理して、医療機関へ伝えると良いでしょう。

## 付録：医療機関が知りたいこと

熱中症の疑いがある患者について医療機関が知りたいこと（分かる範囲で記入して下さい）

### ①不具合になるまでの状況

- ・食事や飲水の摂取（十分な水分と塩分補給があったか） 無 有
- ・活動場所 屋内・屋外 日陰・日向  
     気温（ ）℃ 湿度（ ）% 暑さ指数（ ）℃
- ・何時間その環境にいたか （ ）時間
- ・活動内容  
   （ ）
- ・どんな服装をしていたか（熱がこもりやすいか）（ ）  
     帽子 無 有
- ・一緒に活動・労働していて通常と異なる点として何か気づいたか

### ②不具合になった時の状況

- ・失神・立ちくらみ 無 有
- ・頭痛 無 有
- ・めまい（目が回る） 無 有
- ・のどの渇き（口渇感） 無 有
- ・吐き気・嘔吐 無 有
- ・倦怠感 無 有
- ・四肢や腹筋のこむら返り（痛い） 無 有
- ・体温 （ ）℃ [腋下温、その他（ ）]
- ・脈の数 不規則 速い 遅い（ ）回/分
- ・呼吸の数 不規則 速い 遅い（ ）回/分
- ・意識の状態 目を開けている ウウトしがち 刺激で開眼 開眼しない
- ・発汗の程度 極めて多い（だらだら） 多い 少ない ない
- ・行動の異常。訳の分からない発語 無 有
- ・現場での緊急措置の有無と方法 無 有（方法： ）

### ③最近の状況

- ・今シーズンいつから活動を始めたか 日前 週間前 ヶ月前
- ・体調（コンディション・疲労） 良好 平常 不良
- ・睡眠が足りているか 充分 不足
- ・風邪を引いていたか 無 有
- ・二日酔い 無 有

### ④その他

- ・身長・体重 （            cm,            kg)
- ・いままでに熱中症になったことがあるか 無 有
- ・いままでに病気をしたことがあるか【特に糖尿病、高血圧、心疾患、その他】  
   （ ）
- ・現在服用中の薬はあるか  
   （ ）
- ・酒やタバコの習慣はあるか  
   （ ）

## 4. 医療機関に搬送するとき

### (2) 病院での治療

病院では全身の冷却、脱水(循環血液量が不足している)に対する水分補給、電解質(ナトリウムやカリウムなど塩分)の異常に対する補正、酸塩基バランス(代謝の障害から体液は酸性に傾いている)の補正などが直ぐに開始されます。全身の冷却には以下の方法が用いられます。

#### 体表からの冷却方法

##### < 氷枕・氷嚢 >

氷枕や氷嚢を頸部、腋窩(腋の下)、鼠径部(大腿の付け根)に置きます。この方法により体表に近い動脈内を流れている血液を冷やします。

##### < 冷却マット >

冷水を通したブランケットを敷いたり掛けたりします。

##### < 蒸泄法 >

水を浸したガーゼを体に広く載せて、扇風機で送風します。アルコールを用いる場合もあります。

##### < ウォームエアスプレー法 >

全身に微温湯または室温水を霧状の水滴として拭きつけ、扇風機で送風します。

#### 体の内部から冷却する方法

##### < 胃管または膀胱カテーテルを用いる方法 >

胃や膀胱に挿入した管を用いて、冷却水で胃壁ないし膀胱壁を流れている血液を冷やそうというものです。冷却した生理食塩水を入れては出すという操作を繰り返します。

##### < 体外循環を用いる方法 >

人工(血液)透析などは体外に血液を導き出して再び戻すという方法です。この方法に準じて血液が体外に出ている間に物理的に血液を冷やしてそれを体内に戻すという方法です。

また、重度の熱中症では人工呼吸器を用いた呼吸管理や腎不全(尿が出ない)に対する透析療法なども行われます。ほとんどの場合、これらは集中治療室で行われます。